



たけざわ たけお
竹澤 竹雄さん（若葉町在住）
大正8年生まれの87歳。要介護2。
定年退職後に、区長、老人クラブ会長を務め、地域のために貢献した。
平成14年秋に脳梗塞を発症し入院。退院後介護サービスを受けはじめる。
現在、週6回、通所介護（デイサービス）、訪問介護（ホームヘルプ）、
訪問看護（看護師・理学療法士ら訪問）を組み合わせて利用している。

CASE 1

突然の脳梗塞

支えて、 支えられて

～つるが介護保険物語～

平成12年4月に介護保険制度がスタートして今年で7年。敦賀市でも、下表の通り、年々高齢化率が上昇しています。また要介護・要支援認定者数も急激に増加し、4月現在、65歳以上の約6人に1人が、要介護者または要支援者といった状態です。

もはや、他人事とはいえない「介護」。自分の両親、祖父母、もしくは自分自身に、いつなるとき、訪れるかもしれません。今回の特集では、敦賀市で、どのような人がどのような思いでサービスを受けているのだろうか？ということに焦点をあて、市内で介護サービスを受ける竹澤さんと長森さん取材。介護する側・される側、それぞれの思いを伺いました。

介護保険は全然知らなかった

退院後は、周りの助言もあり、すぐ認定を受けましたが、竹雄さん本人は介護保険のことをほとんど知りませんでした。「そんな制度あってもわたしは対象にならないのや」と思っていたそうです。

その後、何度か入退院を繰り返した竹雄さん。現在は、要介護2の認定を受け、週6回、デイサービス、ホームヘルプ、訪問看護を組み合わせ利用しています。

何とかして自分でせなあかん

「何とかがして自分でせなあかん。頼りにしなくてもあかんのや」家族への負担を減らすと、一生懸命リハビリを行う竹雄さん。理学療法士の達川さんも「竹雄さんはとても前向き。外に出たい、トイレに行けるようになりたい」と具体的な目標があるから、こちらもちょうどいいと感心しきりです。

二人にとって大切な時間

週三回利用するデイサービスは、竹雄さんにとって大切な時間です。

気の合う友人とおしゃべりをしたり、体操や習い事をしたり、ゆったりと過ごす一日。「友人とおしゃべりというよりも、よく似た、同じ境遇の人が集まっているのがいい。同じ悩みをもって話せるもの同士話すことで、すごく安らげる」と、竹雄さんはデイサービスの魅力を話します。また、この時間はさだ子さんにとっても貴重な時間。買い物、

家内を助けてあげたい

野菜作り、通院など自分のことができ、八十過ぎると疲れもすぐ出るので、デイサービスは本当に助かります」と感謝の気持ちでいっぱいです。

家が私の介護で精一杯になり、身体がまいつつしまつ。自分がどうしようよりも、家内を助けてあげたかったんです」と、家族、特にさだ子さんのことを一番に考える竹雄さんは話します。サービスを受けるはじめて五年、いつも様子を見に来ってくれる息子さん夫婦、元気をくれるたくさんのお孫さん、日々お世話になる事業者さん、そして、さだ子さん。竹雄さんはみんなへの感謝を、決して忘れません。

最後に、竹雄さん夫婦は、今後についてこう話してくれました。「目標って特にないな。家内と一緒に旅行に行きたいけどもう行けんしな。治りたいけど、もう半分はあきらめてるし。とりあえず、みんなに迷惑かけんように、今よりは悪くならんようにしたい」竹雄さん。「私はこの人にただついてきただけ。一日でもこの人が元気でいてくれることが幸せ」さだ子さん。
突然の脳梗塞から、ともに歩んできた介護生活。お互いを思いやる気持ちが二人を支えています。

Interview サービスを行う側から



竹雄さんのケアプランを立てるケアマネジャー
たきなみのぞみ
滝波 希さん

竹雄さんは今年の3月から担当しています。そのときは骨折で退院直後ということもあったので、身体に負担がかからないように配慮しながら、機能訓練と人との交流を取り入れた計画を作成しました。
とても前向きな方で、最初に比べ、歩行など少しずつですがよくなってきています。サービスを利用し、身体も心もいきいきと生活している姿を見ると、本当にケアマネジャーみょうりにつきますね。



竹雄さんに介護サービスを行う理学療法士
たつかわひとし
達川 仁路さん

竹雄さん宅に2年前から訪問しています。リハビリ中の竹雄さんは非常に前向きで熱心。外に出る意欲があるし、俳句で頭も動かします。この前、俳句入りの色紙をプレゼントしてもらい、すごくうれしかったです。
リハビリは、利用者の目標設定がしっかりしているほどやりがいがある。竹雄さんのように、トイレにいけるようになりたい、自宅のお風呂に入りたい、など具体的な目標を持っていることが大切だと思います。

◎人口・高齢者数・高齢化率の推移

年月	12年4月	15年4月	18年4月	19年4月
市の人口	68,617人	68,977人	68,859人	68,908人
65歳以上の高齢者人口	12,350	13,492	14,163	14,484
(高齢化率)	(18.0%)	(19.6%)	(20.6%)	(21.0%)

◎要介護・要支援 認定者数の推移

年月	12年4月	15年4月	18年4月	19年4月
認定者数	1,104人	1,846人	2,322人	2,348人
要介護5	184人	251人	251人	273人
要介護4	193人	281人	281人	302人
要介護3	205人	307人	307人	351人
要介護2	100人	355人	303人	408人
要介護1	153人	651人	821人	430人
要支援	138人	341人	※359人	※584人

※ 制度改正により、要支援1・2・経過的要介護を含む

みんなで支える 介護保険制度

40歳以上の皆さんの保険料と国・県・市の負担金で成り立っている介護保険制度。敦賀市でも、今回紹介した竹澤さんや長森さんのように、この制度に助けられている方がいます。2人とも、家族に支えられ、ケアマネジャーや事業所の方に支えられ、現在、家族の一員として元気に過ごしています。

「この制度がなかったら、みじめだっただろうな。自分は幸せやなって思う」竹澤さんはおっしゃっていました。

制度ができて今年で7年。敦賀市でも、この制度に救われた方は2人に限らないと思います。

今は関係ない、年をとっても介護は受けないと思っても、いつか誰にでも訪れうる介護生活。「家族に負担をかけたくない」「できることは自分でしたい」そんな高齢者、そして支える家族の思いを実現するためにも、この制度が果たす役割は大きいと思います。

みんなで支える介護保険。皆さん一人ひとりがこの制度を支えています。



ながもり 長森 とみ子さん（野坂在住）

大正14年生まれ82歳。要支援2。

娘さん夫婦と同居してからは、長年孫のお守りや家事など夫婦を助けてきた。昨年11月に腰を骨折し、2月から介護サービスを受け始める。現在、週2回、市内の事業所でデイサービスを受ける。



CASE 2

とみ子さんは、笑顔が素敵な八十二歳のおばあちゃん。娘さん夫婦と同居し、いつも、ひ孫の駿くん（四歳）と一緒に、はさみ将棋をしたり、家でみんなの洗濯物をたたんだり、家族の一員として、楽しく過ごしています。

年を重ね、 家に閉じこもりがちに

そ 前までは別人でした。年を重ね、次第に体力も衰え、いつの間にか家に閉じこもりがちになっていたので。昨年の十一月には、腰を圧迫骨折し入院することに。退院後、家に戻ってきましたが、身体が思うように動きません。廊下を這うようにしか歩けない。お風呂にも入れない。娘の明美さんは、「仕事も忙しく、見てあげる時間もなく、本当にどうしようって悩んでいました」と当時のことを振り返ります。

デイサービス初日、 おばあちゃんが変わった

悩 んでいた明美さんは、そんなとき、知り合いから介護サービスのことを教えてもらいました。すぐるような思いで申請を行うと、認定の結果は要支援2。週一回のデイサービスを受けることになりました。

不安と期待が膨らむサービス初日。明美さんは、帰ってきたとみ子さんの表情を見てびっくり。お風呂に入って肌はつやつやに、髪も切り、がらつと雰囲気が変わりました。「おばあちゃんの顔がいつもと全然違いました。すっごく明るくなったんです」。夕食の会話もデイサービスの話題ではずみしました。とみ子さんも「みんなよくしてくれる。お風呂も入れるし、本当に楽しかった」と、事業所の人の優しい出迎えに大満足でした。

家族の一員としての充実感

回 数を重ねていくにつれ、徐々に元気になるようになってきたとみ子さん。現在も週二回、仲間と一緒に体操や趣味、お風呂など楽しい一日を過ごしています。家でも「たまに杖を忘れて歩くときもあるんですよ」と明美さんがいうように、できることは自分で行い、ちよっとした家事の手伝いもしています。

とみ子さんはデイサービスで書いた「ゆめ」という習字を見せてこう話してくれました。「夢って特になんやけど、洗濯物を干したりたたんだり、いつまでも家族を助けてあげたいな。あと駿君ともたくさん遊びたい」。すっかり元気になったとみ子さん。家族の一員としての充実感が、今のとみ子さんにはあります。

家族の協力が大きい

と み子さんを思う家族の気持ちはとても強い。明美さんは「とても大事な人。おばあちゃんがいないと仕事も続けられなかった。おかげで息子、娘は大のおばあちゃん子です」と話します。先日の母の日には、孫の由紀さんから、「私にはお母さんが二人いるんだ」と明美さん、とみ子さん両方にお花が贈られてきました。家のリビングには、とみ子さんとお孫君が一緒に作った、お花と鯉のぼりの折り紙が飾ってあります。

相談にあたった地域包括支援センターの加藤さんも「とみ子さんの家は、家族の理解と協力がすごくある。家族の大切

な一員としてとみさんがいられる環境が大きいんです」と話します。

年に一回の家族旅行に どうしても行きたい

と み子さんの家では、夏に一大イベントが控えています。それは、年に一回だけの家族旅行。忙しい仕事の合間をぬって家族が揃い、温泉旅行に行きます。「一時はあきらめていたけれどもこれで今年も何とか行きたいね」と明美さんは、やさしい眼差しでとみさんに話し掛けます。「無理やと思ってたけど、何とかなりそうや」三ヶ月間のデイサービスを受けて、とみ子さんの顔に元気が戻ってきました。

市役所からのお願い



市民の皆様へ

介護保険料の納付に、 ご理解とご協力をお願いします。

平成19年度介護保険料額決定通知書および納入通知書は、7月中旬にお届けする予定です。保険料の納付につきまして、ご理解とご協力をお願いします。

なお、低所得者の方を対象とした、介護保険料および利用料の減免制度の内容は、保険料額決定通知書と一緒に送付します。詳しくは、介護保険課までお問い合わせください。

Interview サービスを行う側から



とみ子さんの
ケアプランを立てる
地域包括支援センター
加藤雅之さん

初日は、事業所までとみ子さんの様子を見にいきました。すごく心配だったんですが、楽しそうにしているとみ子さんを見て一安心。身体ももちろん、気持ちの面が元気になってきたことがうれしいです。

とみ子さんのように、サービスだけで終わるのではなく、それを源として普段の生活につなげることが大切。サービスを通じて外出が増えた、家で話す機会が増えたなど元気になる方がどんどん増えてほしいです。



とみ子さんに
介護サービスを行う
デイサービスセンター
石田 朋恵さん

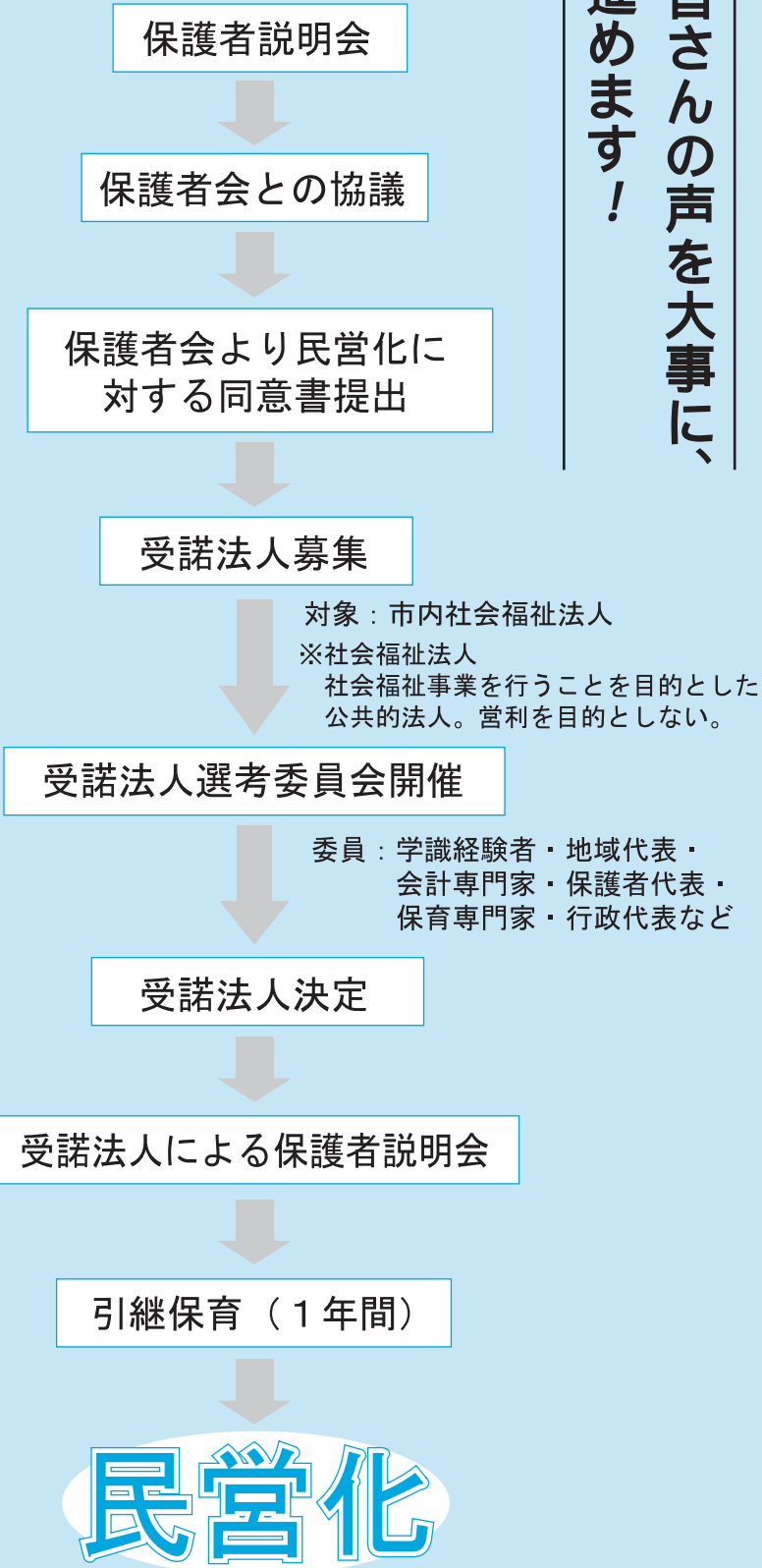
とみ子さんはかわいらしいおばあちゃん、いろんなメニューに全部参加しています。いつも笑顔が多いですね。これからは、1日でも楽しいって思える時間が増えていけばいいなって思います。

とみ子さんをはじめ利用者には教えてもらうことが本当にいっぱいあります。私たちはちょっとお手伝いをしていただけ。デイサービスに来て、一人でも幸せになってくれる人が増えてほしいです。

問合せ 介護保険課 専22-8180

民営化までのスケジュール

保護者の皆さんの声を大事に、
民営化を進めます！



平成20年度民営化予定の松原保育園。
平成18年12月には、受諾法人が諏訪
賀市社会福祉事業団に決定。受諾法人
との保護者説明会も開催し、現在、平
成20年4月からの民営化に向けて1年
間の引継保育が行われています。



～敦賀の保育サービスの向上を！～

保育園 民営化

全国的に進められている、公立保育園の「民営化」。
敦賀市でも、限られた財源の中で、市民の皆さんの
多様な保育ニーズに応えたい、また少子化対策・子育て
支援の充実など、子育てしやすいまちを目指したい、
との思いから、平成20年度の松原保育園をはじめ、
23年度までの間に、木崎保育園・金山保育園・新和
保育園の順に民営化を予定しています。
今回の特集では、皆さんに、民営化の目的、進め方、
Q&A、今後の予定等をお知らせします。

多様化する保育ニーズに対応し、
子育てしやすいまちに

多様化する保育ニーズ

近年、核家族化の進行
や女性の社会進出に伴い、
共働きの世帯が増加して
います。また、休日勤務
や深夜・時間外勤務をす
る保護者も増え、ライフ
スタイルは昔と比べ、大
きく変わってきています。
『仕事で帰りが遅く、延
長保育をしてほしい』
『休日も仕事なので休日
保育をしてほしい』
『低年齢児保育も充実し
てほしい』……。

保護者からの保育ニ
ズは、日々増加・多様化
しています。
市が平成16年に行った
「地域福祉アンケート調査」
でも「出産育児がしやす
い社会形成のために必要
な事」の問いに「延長保

「コスト削減」 削減した予算は児童福 祉の財源に

さらに、民営化によ
つて、公立保育園の運営費
が削減できます。
平成16年度から三位一
体改革により、国・県が
らの運営費負担金が私立
保育園に限定され、公立

育や低年齢児保育等、保
育サービスを充実する」
との回答が、一般市民、
社会福祉従事者（福祉・
医療・保育等に携わる方）
とも一番多く、多様な保
育サービスを求める声が
強いといえます。

民間活力を導入し、 多様で特色ある保育に

このような保育ニーズ
に添えていくため、市で
は、積極的に民間の力を
借りながら、保育メニ
ューの充実や子育て支援の
強化を進めていくことが
必要と考えます。

保護者の就労形態に応
じた多様な保育メニュー、
運営する側の特色ある保
育ができる私立保育園が
増えることで、敦賀市の
保育がさらに充実すると
考えます。

保育園の運営は、保育料
以外は全て市の負担金で
賄われています。

公立保育園の民営化に
より、市の負担金が削減
でき、その削減した予算
を活用し、子育て支援や
少子化対策などの児童福
祉分野を、よりよいもの
にしていきます。

民営化に関する

ご質問にお答えします！

民営化 Q&A

民営化ってちょっと不安・・・
いったいどう変わるのかしら？



Q 保育内容に変更はあるのか

A 保育方針は法人が考えるものに変わりますが、その内容は、厚生労働省が示す保育所保育指針に基づき、公私立とも保育が計画されるので、大きく変わることはないと考えています。

民営化にあたり、今の保育園のどういうところを残し、どういうところを変えてほしいのか、保護者の皆さんのご意見を踏まえて、保育内容の引き継ぎの方法なども、受諾法人を募集する際の条件として提示していきます。

Q 給食の質は下がらないのか

A 保育園における調理については、施設内の調理室を使用して調理することになっています。また、市の栄養士が作成した献立表を私立保育園にも配布し、参考にさせていただいています。卵・牛乳・小麦粉など食材に対するアレルギーのある子どもには、公私立保育園ともに、アレルギー除去食、代替食や離乳食などの対応も行っていきますので、給食の質は下がるとは考えていません。

Q 保育料が増えるのではないのか

A 保育園の保育料は、公立でも私立でも同じ基準で市が決定するので、私立保育園だから高くなることはありません。

ちなみに、市の保育料は、国基準の保護者負担額の約7割となっています。残りの約3割は市が負担し、保護者の負担軽減を図っています。

Q 民営化になったら、行政は何もしないのか

私立保育園に対しては、市の助成事業を中心に、児童家庭課職員が指導を行ったり、保育内容や保育園の運営について、県の職員が定期的に監査を行ったりします。監査で改善すべきところが見つかれば、指示・指導を行います。法人には法令に基づきそれに従う義務があります。

また、公私立問わず、園への苦情があった場合は、現在も指導を行っています。民営化後は、こうした機会を活用して市の考えをきちんと受諾法人に伝え、持続性のある質の高い保育が提供できるようにしていきます。

Q 営利目的にならないか

A 受諾法人の応募対象である「社会福祉法人」は社会福祉法に基づいて設立される公共的法人で営利を目的としていません。また移管後は、市の児童家庭課職員、県が監査を行い、必要に応じて改善を求めていきます。

Q 保育士は必要人数が配置されるのか

A 保育士の配置数は、国で最低基準が決められているので、公立と同様その基準は遵守しなければなりません。

Q 現在通園している子どもたちは、そのまま通園できるのか

A 現在、通園している子どもさんは、そのまま通園していただきたいと思っています。転園を希望される場合は、公立・私立を問わず、通常の転園申込を行えば転園が可能です。（転園希望園の入所状況によっては希望に添えない場合もあります。）

Q 市の財政状況が厳しいことを理由に民営化すべきではないと思うが

A 市の財政状況が厳しいことは、広報つるがや行政チャンネルでお知らせをしているとおりです。子どもたちや保育園に直接関係することではありませんが、公立保育園の運営が市の財政状況と切り離して考えられないことも事実です。

民営化により、保育園運営費が節減できることは間違いありません。公立保育園の運営は市税等を使って行われており、「最小の経費で最大の効果を上げる」ことは行政の責務の1つです。当面

の目的は、限られた財源の中で、施策を拡充したり、私立保育園で行う事業を支援したりするための財源を生み出すことです。単なるコスト削減ではないことをご理解いただきたいと思います。

民営化についての質問がありましたら、お気軽に児童家庭課までお問い合わせください。



皆さんのご理解とご協力を お願いします

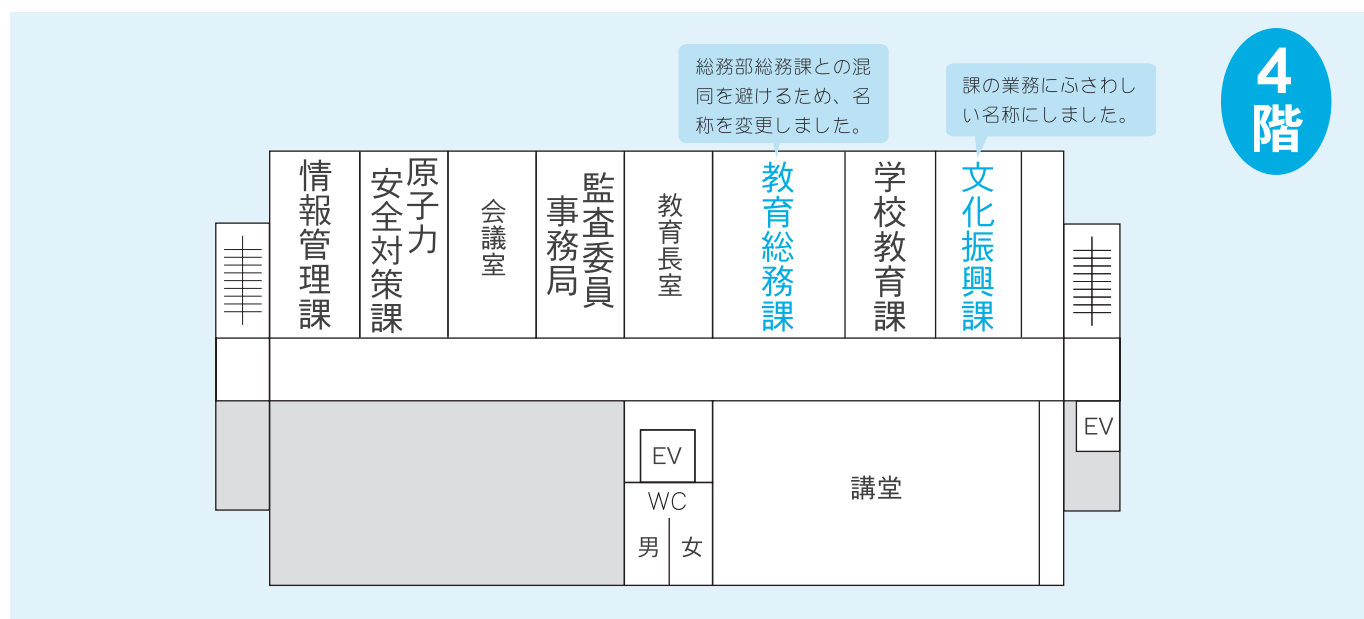
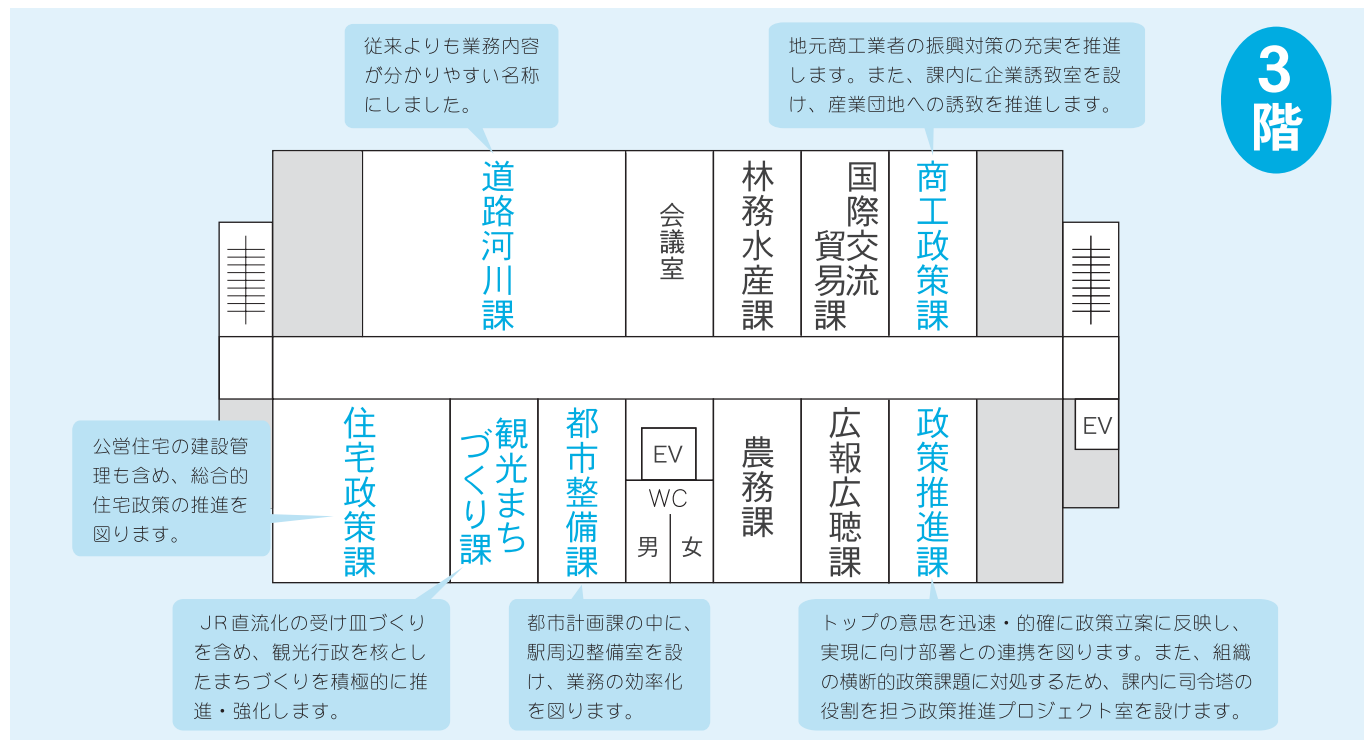
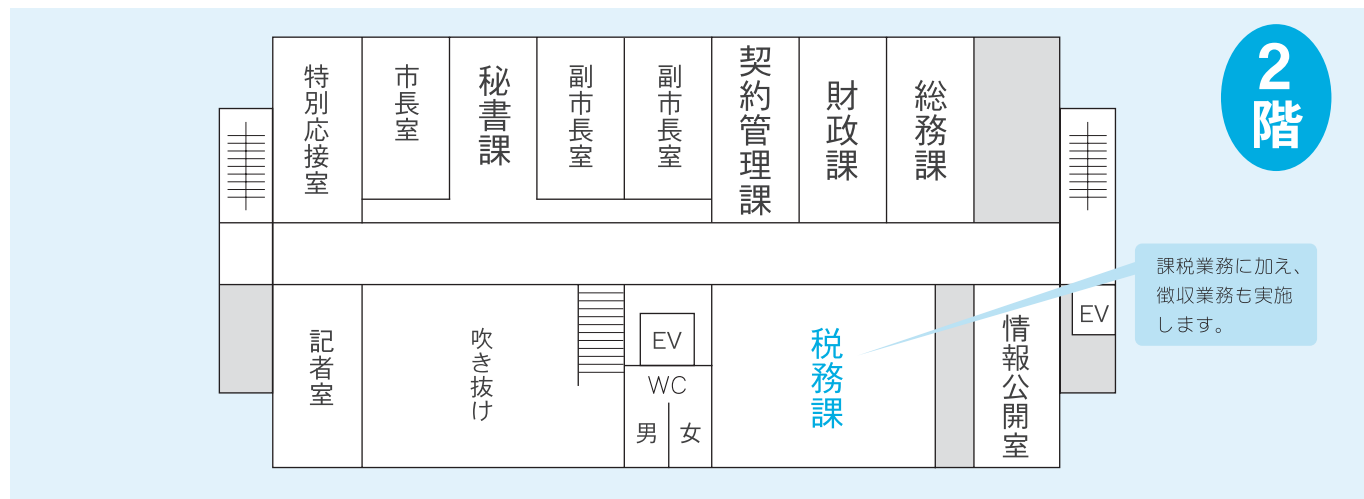


市では、現在に至るまで、市民の皆さんとともに今後の市政運営を考えた「行政改革大綱」、また、それをもとに学識経験者や地域代表、母親クラブ等の代表者が集まり審議した、「敦賀市保育園民営化検討委員会報告書」をもとに、計画を進めてきました。

今後、保護者の皆さんの理解が得られるよう、受諾法人の選定・保育の引き継ぎなど、慎重に市立保育園の民営化を進めていきたいと考えています。

民営化について、園児の保護者をはじめ、市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。





問合せ 総務課 専22-8101

機構改革

6月1日〜

組織の名称と位置が一部変わりました!

市民の皆さんの意見を取り入れ、敦賀市の将来像を描いた「第5次敦賀市総合計画」(平成9年策定)。その集大成となる第三期基本計画の実現に向け、より効果的・効率的に施策を進めていくために、6月1日から市の組織を変更しました。課の名称や位置の変更など、市民の皆さんにはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

【機構改革の概要】

部の変更
企画部 → 企画政策部 健康福祉部 → 福祉保健部

課の変更

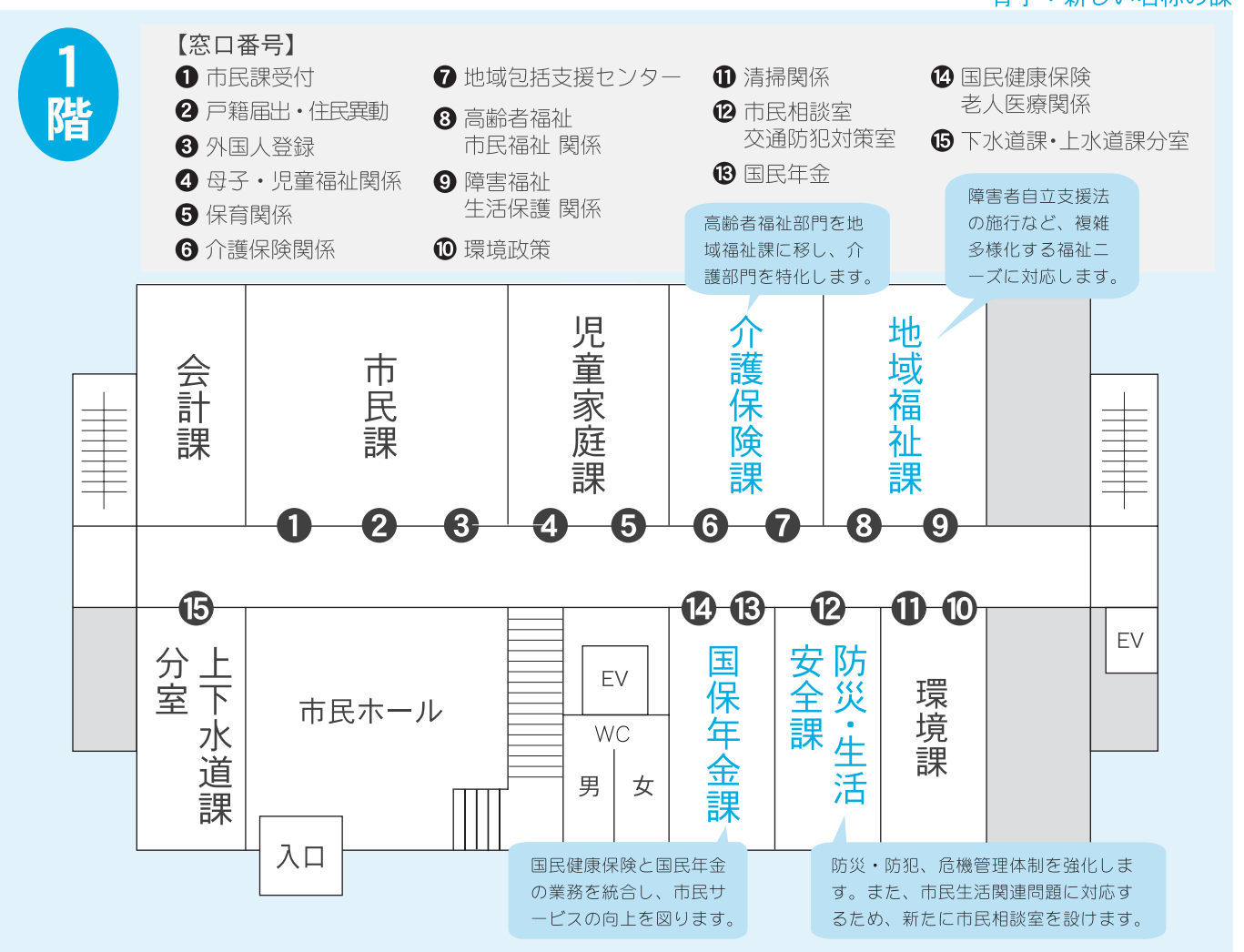
廃止 収納課、企画調整課、(病院)施設管理課
新設 政策推進課、観光まちづくり課、国保年金課
統合 商工観光課+産業団地整備課 → 商工政策課
 都市計画課+駅周辺整備課 → 都市整備課

名称変更

課税課 → 税務課
 男女共同参画課 → 市民協働課
 生活防災課 → 防災・生活安全課
 福祉保険課 → 地域福祉課
 長寿福祉課 → 介護保険課
 土木課 → 道路河川課
 建築住宅課 → 住宅政策課
 文化課 → 文化振興課
 (教育委員会)総務課 → (教育委員会)教育総務課
 (病院)医事課 → (病院)医療サービス課

役職の変更 政策幹(副部長級)を設置

青字：新しい名称の課



特別会計

特定の事業について設けられた会計で、事業ごとの予算になっています。

【単位：万円】			
会計名	予算額	収入済額	支出済額
港湾施設事業	1,884	3,844	1,141
都市計画土地 区画整理事業	77	88	77
簡易水道	2億 838	7,592	1億9,849
国民健康保険 事業	58億1,914	49億2,389	54億5,636
下水道事業	40億7,593	15億 886	29億9,910
地方卸売市場	3,654	3,433	3,493
老人保健	60億2,311	52億 399	56億6,351
漁業集落環境 整備事業	3,149	724	2,596
農業集落排水 事業	2億7,409	4,415	2億1,881
介護保険	36億5,771	29億3,309	32億5,164
産業団地整備 事業	7億 102	3億9,091	6億 538
敦賀きらめき 温泉	3億 660	2億 958	2億5,678

企業会計

会社の形で運営されており、病院や上水道があります。

【単位：万円】			
<病院> 敦賀病院事業会計			
項目	収益的収支	資本的収支	
収入	予算額	61億5,571	14億4,133
	収入済額	55億2,130	14億4,133
支出	予算額	62億9,625	15億3,778
	支出済額	62億4,766	15億 296

敦賀病院の利用状況 ()は前年度の数値

年間入院患者延数	86,060人 (88,872人)
年間外来患者延数	182,269人 (181,609人)
1日平均外来患者数	744.0人 (744.3人)

【単位：万円】			
<上水道> 水道事業会計			
項目	収益的収支	資本的収支	
収入	予算額	8億8,730	3億 173
	収入済額	10億 276	3億 139
支出	予算額	8億8,730	7億 45
	支出済額	8億8,079	6億9,615

水道の利用状況 ()は前年度の数値

給水人口	67,720人 (67,212人)
年間給水量	10,306,675m ³ (10,457,670m ³)
1日1人当たり平均使用量	417ℓ (426ℓ)

予算の執行状況



～平成18年度 財政事情の公表（平成19年3月31日現在）～

市の財政は、市民の皆さんに納めていただいている税金や国からの補助金などの収入で成り立ち、よりよい市民生活のために使われています。今回は、平成18年度の歳入(収入)と歳出(支出)などの状況をお知らせします。平成18年度の歳入と歳出は、5月31日で締め切られますので、各会計とも未収、未払いを残しています。

一般会計

市の中心となる会計で、その歳入や歳出もさまざまな分野にわたっています。

歳出(支出)

予算額 273億8,915万円

支出済額 193億 48万円 (予算額の70.5%)

歳出は民生費が最も多く、続いて、総務費、衛生費、土木費の順になっています。

支出済額	予算額
48億9,449万円	民生費 65億8,404万円
25億 940万円	総務費 46億9,803万円
30億6,216万円	衛生費 43億1,087万円
15億6,423万円	土木費 36億2,166万円
23億3,383万円	教育費 25億4,897万円
17億6,451万円	公債費 20億4,712万円
31億7,186万円	その他 35億7,846万円

- 民生費…お年寄りや障害者、子どもたちを支えました。
- 総務費…戸籍事務や市の内部管理などを行いました。
- 衛生費…皆さんの健康を支え、環境美化を推進しました。
- 土木費…道路や住宅、公園などを整備しました。
- 教育費…学校教育や生涯学習、文化、スポーツを振興しました。
- 公債費…市が借り入れたお金の返済を行いました。

歳入(収入)

予算額 273億8,915万円

収入済額 220億1,025万円 (予算額の80.4%)

歳入の51%は、市税で支えられています。続いて、国庫支出金、市債の順になっています。

収入済額	予算額
143億1,216万円	市税 139億7,732万円
11億8,432万円	国庫支出金 45億2,954万円
2億9,310万円	市債 17億7,460万円
7億1,269万円	県支出金 12億3,668万円
9億8,932万円	諸収入 12億 967万円
45億1,866万円	その他 46億6,134万円

- 市税…個人や事業所にかかる税金で、市に納められるもの
- 国庫支出金…国からの負担金や補助金など
- 市債…市が借り入れたお金
- 県支出金…県からの負担金や補助金など
- 諸収入…預金の利子や貸付金の元利収入など

市民1人当たりの市税負担額		内訳	
81,988円		市民税	40,217円
		固定資産税	27,326円
		たばこ税	7,629円
		都市計画税	4,769円
		その他	2,047円

●平成18年度中に実施した主な事業●



JR 直流化関連事業

平成18年10月21日、JR北陸線・湖西線が直流化開業。新快速の1番電車到着時には、敦賀駅のホームはたくさんの人でごった返しました。

【一般会計歳出】から

駅前広場改修等事業(土木費)、JR 直流化開業記念事業(その他)、新正田駅周辺整備事業(総務費)など

【一般会計歳出】から

最終処分場建設事業(衛生費)

平成19年3月に完成した、赤崎区の一級廃棄物の最終処分場。12年間の受け入れを予定しています。



赤崎最終処分場の建設

問合せ 財政課 専22-8104